

〇〇さん ブログの削除について

差出人: 杉本徳久 Sugimoto Norihisa (sugimotonorihisa@gmail.com)

送信日時: 2012 年 1 月 22 日 0:51:12

前略、〇〇様、

杉本です。

何度もご連絡していますが、無視されたままになっておりますが、どういふおつもりでしょうか。

杉本氏の自己顕示欲の強さ、人からの返答をじっと黙って待つことのできない性格、相手の沈黙の中に込められた意味を想像することのできない思いやりの欠如、他者から無視されることに我慢がならず、常に自分に注目させたいと願う幼児的な願望がよく現れている。

本当にあなたに対してお灸をすえることをしなければと思うようになりつつあります。

どんな権利に基づいて、杉本氏は自分が不法に他者を断罪したり、「お灸をすえる」ことを肯定するのだろうか？ それは私刑容認の思想ではないのか？ こうして杉本氏は自らが神のようになって、常に他者の上に立って君臨し、他者を「裁き、断罪し、処罰したい」という飽くことのない欲望を述べずにいられず、また、そのような恐るべき欲望を通してしか、クリスチャンに関われないのである。こうした行動は極めて異常であり、このようにキリスト教徒への弾圧を飽くことなく求める欲求は、まさに「日夜、兄弟たちを訴える者」である悪魔の欲望を想起させる。

私の名、杉本徳久で検索すると、あなたのブログが上位に出てくるようになり、友人、知人からの問い合わせも増えてきています。どう答えて対応すれば良いか、こちらも困っています。

きちんと市民としてふさわしい態度で、適切に行動してください。

杉本氏が自分の評判を非常に気にする自己顕示欲の強い男であることがよく分かる文面である。自分に対するいささかの批判や反論も容認できない狭量さがよく現れている。そして、またもや、ここで杉本氏が持ち出しているのは「市民としてふさわしい態度」である。

もし「市民としてふさわしい態度で、適切に行動」するならば、気に入らない記事の削除を一方的に他者に迫り、削除しなければ他者の個人情報暴露すると恫喝するのではなく、まず自分自身がその他者について書いた否定的な記事を削除し、謝罪してから、次に他者に気に入らない記事を削除してもらえよう依頼するのが当然の筋である。自分だけは他者を好き勝手に誹謗しながら、その他者には反論する自由さえ認めないというのでは、とてもではないが公平な態度ではない。だが、杉本氏にとっては、自分に対する反論はどんなものでもすべて「でたらめな誹謗中傷」であり、「俺様に盾突く人間は誰であれお灸をすえなければならぬ」ということになっているのであろう。

私への誹謗中傷を止めないならば、あなたの名を公開し、あなたについての情報を集め、責任をしかるべき形でとっていただくことを考えています。

もう、十分に時間と機会をご用意いたしました。

きちんと削除して対応して下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

もし他者の書いた特定の記事が自分への誹謗中傷であると判断するならば、まずプロバイダへの削除依頼を出し、それでも効果がないなら、警察に相談し、被害届を出す、などの常識的な方法がいくつも存在する。ところが、杉本氏はそのどれも使わず、個人情報を違法に暴露することによって相手を恫喝して黙らせようと試みているのである。そんな行動のどこが「市民としてふさわしい態度」なのであろうか。杉本氏の言う「責任をしかるべき形でとっていただく」とは、結局、「俺様の一存でおまえに私刑を加えてやる」という意味でしかない。このような考え方は、「目には目を」以上の報復の連鎖、憎しみの連鎖を生むだけで、事態に何の解決ももたらさない。これは、人が自分勝手な判断で、自ら敵とみなした人間に懲罰としての私刑を加えることを容認する恐ろしい思想であり、恫喝をもって不都合な言論を弾圧し、情報統制を試みようとするもので、村上密氏と全く同じ発想である。このような思想を述べている者がクリスチャンを名乗っていることには大いなる疑問を感じざるを得ない。これはおよそ信仰者にふさわしい思想や行動ではない。

180001

武蔵野市吉祥寺北町 1 - 5 - 1 4

杉本徳久

07050127587